

エコロジカルな回心 —すべてのいのちを守るため—

名古屋修道院

「被造物を大切にす世界祈願」は2007年から始まり、9月1日の被造物を大切にす日から10月4日のアシジの聖フランシスコの記念日まで、2020年から「すべてのいのちを守るための月間」と定められ実施されている。今年「被造物の季節」のテーマで、教皇様は創造主を賛美する甘美な歌声の中には悲痛な叫びが重なり、母なる大地の過剰な消費主義の支配、虐待と破壊に終止符をうち、地球上のすべての被造物の叫びに耳を傾けるよう懇願された。特にもっとも貧しい人々の叫びに心をとめ、悔い改めと有害な生活スタイルを変える必要を日々の行動で示していく責任が個人としてだけでなく、共同体としても必要とされるとのメッセージを送られた。私たちの共同体でも一か月余、教皇様の「すべてのいのちを守るためのキリスト者の祈り」を毎日となえ、意識して過ごすように努めた。

今年、総会決議を受け、議案2の「共同体は福音を生きる第一の場」2)の「生活の見直しの必要性」を共同体、個人としても強く感じ、教皇様の「地球の叫びに耳を傾けよう」との呼びかけの言葉に心を留め、それぞれ努力して生活するよう心がけた。特に地球の叫びに耳を傾けるマリア・イエスの生涯を「心に納めて世界を知恵の目で見られるようにしてくださいと彼女に願うことができるのです」(『ラウダート・シ』241)とのお言葉を受け、祈りにいっそう熱意をこめている。



生活の中での取り組み

庭のみかんの木

△資源の再利用

新聞紙、広告のチラシを折ってゴミ袋などに利用し、白い裏紙はメモ用紙に、封筒を裏返して再度利用、食品購入後の牛乳パック、トレー、ペットボトルは資源回収へ持参している。古くなった布を細かくし、台所のガスコンロ、油拭き等に使用し、排水に気をつけている。

△食生活での心がけ

食品購入の際は新聞のチラシに目を通し、安価や消費期限の早い(購入日に近い)ものを購入、食品保管用のサランラップ類はできるだけ使わず、容器を利用し、食品、調味料は最後まで使い切るよう心がけ、庭で収穫した食品類は加工して無駄をなくすようにし、大量にいただいた食品の長期保存、調理の創意工夫に努めている。

△衣生活における工夫

自然界、川や海の汚染、生物の命への危害を意識し、洗剤を規定以上に使用しないように気を付け、洗濯機使用は時短で節水と節電、すすぎの水を次回使用する等心がけている。

△住まい、その他

電気のこまめな消灯、冷蔵庫の開閉、ガス、水道、冷暖房の使用では相互の声掛けで無駄をなくすよう気を付けている。

一滴の水、一粒の米、一瞬の電気、一枚の紙、あらゆる生活の中でどれも大きな事へつながっていくことを痛感している。エコロジカルな生活は、毎日の生活の積み重ねで大きく左右され、一人ひとりの意識の持ち方で変わっていくのではないかと、いつも振り返りながら歩んでいる。世界の多くの人々がSDGsへの取り組み、自然環境を守るための努力や実践に、時間や労力、優しい心で寄り添う奉仕に励む思いを共有し、すべての命を大切にす心を広げていけるよう、日々の小さな回心とおささげで歩みを続けていきたい。